

健康 ぷらざ

赤ちゃんには大問題

- 妊娠と喫煙 -

指導：前 東京慈恵会医科大学産婦人科教授

寺島 芳輝

企画：
日本医師会

No. 74

女性の喫煙が増えています

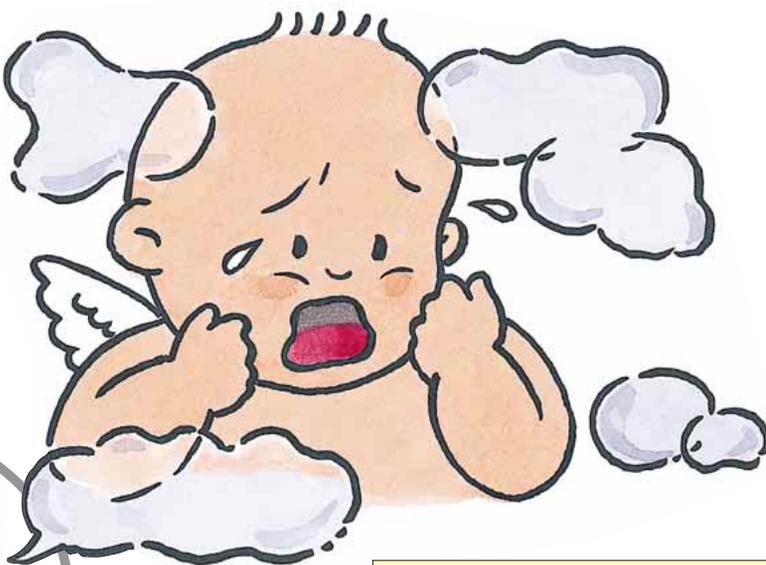
世界的に喫煙人口が減る傾向にあります。わが国でも同様ですが、ここ数年では逆に若い人、特に若い女性の喫煙率が高くなっています。

喫煙は各種のがん、呼吸器や心臓の病気と深い関係があるので、老若男女を問わず、できるだけ禁煙することが望ましいのです。

女性は妊娠・出産能力を低下させますので、これから子どもを産むかもしれない女性の喫煙は問題です。

胎児には明らかな悪影響が...

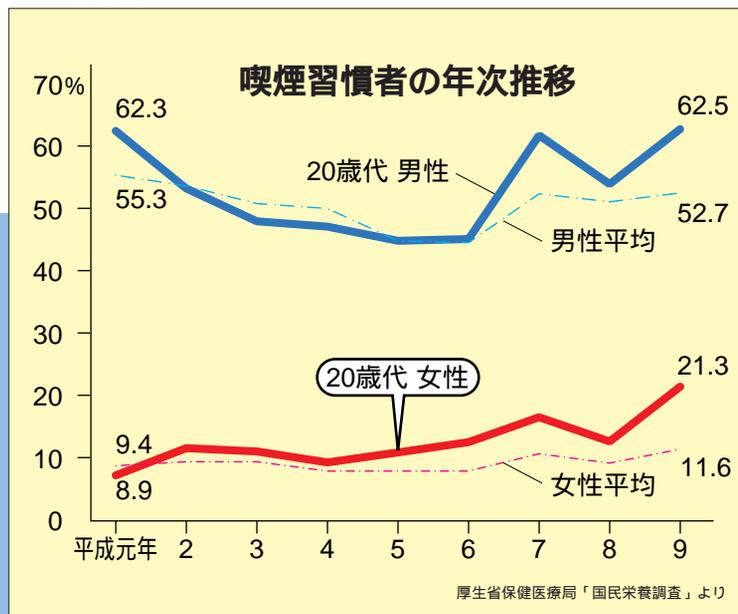
たばこに含まれる成分のうち、胎児にとって特に有害なのは一酸化炭素とニコチンです。ニコチンの作用で子宮胎盤の血流が悪くなって、胎児の栄養が不良となり、体格の小さな赤ちゃん（低出生体重児）が生まれたり、早産、流産の発生が高まるということが指摘されています。また、妊娠合併症や死産なども増加します。



今からでも禁煙しましょう

わが国では「妊娠に気づいた時点では喫煙者だった」という女性が3分の1程度いるというデータがあります。一方、これから妊娠する可能性のある女性全員が禁煙すれば胎児・乳児の死亡率が約10%減少するだろうという試算もあります。近年、医学の進歩により、新生児の死亡率が格段に下がっているとはいうものの、この数字をどのように考えるべきでしょうか？

禁煙は今からでも遅くはありません。どうしてもやめられない人は、医師による禁煙指導を受けるとよいでしょう。ガムや貼り薬などを使った新しい治療法もありますので、かかりつけ医に相談してみてください。



待合室等に掲示し、患者さんにも見せてください。